

“人間一家畜一環境をめぐるマイクロ連環系の科学”の構築 ～青海チベットにおける
牧畜語彙収集からのアプローチ

平成 27 年度第 2 回研究会報告

日時：平成 27 年 10 月 31 日（土曜日）（10 時より 18 時半）

11 月 1 日（日曜日）（9 時より 15 時）

場所：AA 研 405 号室

報告者名：星泉（AA 研）

参加者（9 名）：海老原志穂，津曲真一，平田昌弘，別所裕介，星泉（以上，本課題メンバー），小川龍之介，山口哲由（以上，研究協力者），阿部治平（ゲスト），古橋武（ゲスト）

10 月 31 日（土）

- ・ ビジネスミーティング（全員）10:00 – 11:00
- ・ 研究会 11:00 – 16:00
 - 忘却されていく牧畜語彙（海老原志穂）
 - 家畜と宗教儀礼の変遷（津曲真一）
 - 牧畜技術の変遷：放牧地私有化の前後の比較（山口哲由）
 - 中国青海省におけるアムド系牧畜民の乳加工体系の柔軟性（平田昌弘）
 - おいしくて健康なバターを追求して：ある牧畜民の発明（星泉）
 - 家畜を肉にする前に：ゲワチュをめぐる商品経済（別所裕介）
- ・ 講演 16:00 – 18:30
 - 青海省における乳製品のイノベーション（阿部治平・古橋武）

11 月 1 日（日）

- ・ 研究会 9:00 – 15:00
 - チベット牧畜辞典の編集作業について（全員）

<研究会実施報告>

最初のビジネスミーティングにおいて，本課題をベースとした科研費基盤研究（B）により 8 月に津曲以外のメンバー全員が参加して現地調査を実施（ナムタルジャは現地にてコーディネーターを担当）したので，各自担当した調査の報告を行った。

続く研究会では，本課題の共同研究員および研究協力者で，2016 年に開催される国際チベット学会においてチベット牧畜に関するパネルセッションを組むことが決定されたので，各自発表したいテーマで研究発表を行い，軌道修正や追加調査が必要な点を議論した。

1 日目の最後に，ゲストの阿部治平氏と古橋武氏に「青海省における乳製品のイノ

バージョン」と題する講演をしていただいた。両氏は乳製品の開発や乳酸菌に造詣が深く、近年では青海省畜牧医科学院に依頼されて技術指導を行っていることから、チーズを中心とする世界の乳製品事情との比較と青海省での乳製品加工についてお話いただいた。

2日目には、夏の現地調査をふまえ、『チベット牧畜語彙辞典』に掲載する語彙項目において担当者が追加調査の必要な点を整理して提示した。また、研究協力者の山口がデータベースに採録済みの単語を体系的に整理し、今後調査が必要となるカテゴリーの検討を行った。共同編集用のデータベースを改善するための打ち合わせも行った。

また、2016年1月刊行予定の『チベット文学と映画制作の現在 SERNYA』vol. 3 (チベット文学研究会編, AA 研) において「牧畜民の暮らしと文化」という巻頭特集を組み、本課題の共同研究員と研究協力者が、現地調査で明らかになった研究成果を一般向けに分かりやすい記事にまとめることとし、それぞれの執筆予定の内容を報告した。